

毎日入諸定

代衆入諸

令離種々苦

能引道

# 立山道

石造物  
マップ



## 古代・中世の立山道

立山は九世紀半ばに仏教的に開かれたといわれます。古代の立山は、修験者が登り拝んだ修行の山だったと考えられています。

明治四十年に劔岳山頂から発見された錫杖頭・鉄剣は平安時代初期とされ、明治二十六年に大日岳で発見された双龍飾錫杖頭も平安時代の作とされるものです。これらの品は修験者が立山を修行の場としていたことを示すものです。

中世になると山岳修験が盛んになり、立山でも鎌倉時代からの阿弥陀如来御正体かみまがた、懸仏、鏡などが発見され多くの修験者が修行に励んだ様子すがうかがえます。

古代・中世の道筋

は今日たどることはできませんが、立山信仰の拠点であった森尻（森尻寺）、日中（日中寺）、米道（大伝寺）などを経て芦峯寺に至る道が推定されています。



劔岳出土 銅錫杖・鉄剣(重要文化財) \*1

## 近世の立山道

江戸時代に入ると、立山信仰はそれまでの修験信仰から、しだいに庶民に開かれた信仰のうちに変化しました。

立山は地獄・極楽の世界をこの世で体験できる霊山として、全国的な信仰を集めました。最盛期にはひと夏で六千人もの人々が登拝しています。

登拝する人々は、富山や滑川から立山登拝の拠点であった岩峯寺・芦峯寺の宿坊に宿泊しました。翌朝早く、装束を整え中語ちゆうごと呼ばれる案内人に従って室堂まで向かい、三山巡りや地獄巡りは宿坊の衆徒によって案内されました。



越中国立山禅定並略御縁起名所附図  
(宝暦13角屋源助版 立山町蔵)

## 近代以降の立山道

幕末になると相次ぐ凶作・飢饉などにより、立山への登拝者は激減していました。そして、明治になると神仏分離令によって伝統的な神仏習合の立山信仰は一大転機を迎えます。

明治五年（一八七二）、立山登拝の女人禁制が解かれ、登山者は女性、児童のほか外国人にも広がります。明治十二年（一八七九）のアトキンソンは植物・氷河・地質などに関心を持ち、山岳信仰から離れた近代的登山を行いました。

また、明治以降それまで禁じられていた信州からの入山が自由になり、新しい立山開発もはじまります。様々な調査を目的とした登山は、はじめ外国人によって行われましたが、明治二十年代になると日本人も参加しています。明治三十年代には山崎カールを見出した地質学の山崎直方、そして参謀本部陸地測量官柴崎芳太郎は明治四十年に劔岳を登攀しました。

アルペンルートが開通した現在、旧登山道は蛇行する自動車道に分断され、たどれない部分が多くなりましたが、新たに整備された散策道に一部用いられ、かつての面影を残しています。

最初の立山道は修験者の立山登拜路でしたが江戸時代には多くの一般参詣者が訪れた道でした。江戸、関東・東北方面から訪ねる参詣者達は滑川から岩峠寺、芦峠寺を経由して室堂に至ったようです。また関西方面からの参詣者は富山を出発し、大森または上滝を経て岩峠寺に至る道を利用しました。

それぞれの旧道沿いには立山信仰に関わる名所・旧跡があり、要所要所には道を指し示す道標が建てられています。現在も多く残っており、銘文に刻まれた各地の寄進者から、国内外の多くの信仰を集めていたことがうかがえます。

立山に向かう登拜路のほか、上滝から常願寺川左岸を伝って本宮、原を経由し立山温泉に至る立山温泉道は、多くの湯治客で賑わいました。

また、立山の東方、黒部川兩岸の峰々一帯の国境防衛と山林管理に当たった黒部奥山廻役は、立山道から室堂、一の越、ザラ峠、針ノ木谷、鷲羽ヶ嶽(三ツ保蓮華岳)、有峰などを検分する巡視路を通りましたが、この道は一般人には秘密とされていました。

立山登山記として最初のものは、文明十八年(一四八〇)、立山に登った僧道興准后の『廻国雜記』です。はじめて本格的な登山記が書かれたのは天和三年(一六八三)、俳人大淀三千風の『立山路往』で『日本行脚文集』に収められ元禄三年(一六九〇)に出版されています。

文政六年(一八二三)尾張藩士某は白山・立山・富士山を連続登山し、その四〇日間にわたる大旅行を『三の山廻』に書きとどめました。

これらの紀行文には、登山の旅程記録だけでなく、小遣いなどの経費も書き上げてあり、立山登拜の実態に加え、当時の物価の様子などがうかがえて興味深いものです。

また、紀行文をみると立山登拜に対する人々の視点が変質していく様子を見ることができます。江戸時代の中末期になると、仏教的思想は薄らぎ、かつての因果応報の思想や宗教的感動はあまり描かれなくなります。十返舎一九は、立山登山紀行「金の草鞋」(文政十一年・一八二八)で洒落と滑稽味を絡め、立山地獄をパロディ化して紹介しています。

立山は、近世には全国から人々が訪れる一大参詣地のひとつでした。ただし、立山参詣は誰でも容易にできるものではなく、日数と多額の費用を要するものであったようです。

江戸時代後期の立山登拜について記した古文書によると、氷見から五泊六日の立山参詣で、現代の貨幣価値に換算すると一人当たり十五万から二〇万円の費用がかかっています。当時の民衆にとって立山参詣は、生涯の中でも非日常に身を置くことができた、高価で貴重な旅であったようです。

天保10年(1839) 名苗善三郎 1人分の旅費 (5泊6日)

	当時の金額	換算した金額
入山料	150 文	7,140 円
三山巡り	200 文	9,520 円
血盆経	3 文	143 円
宿泊費	855 文	40,698 円
茶代・酒代	340 文	16,184 円
舟賃など	40 文	1,904 円
草履代(4足)	20 文	952 円
お土産代	475 文	22,610 円
その他	2,322 文	110,527 円
計	4,405 文	209,678 円

野口安嗣「江戸時代の立山参詣の費用」『富山県立山博物館研究紀要 第19号』より抜粋

# 立山参道の石塔並びに石仏群

(富山県指定有形民俗文化財)

旧立山参道ならびに、雷鳥平、伽羅陀山に奉納された石仏(四十七軀)と、芦峯寺、地獄谷、室堂平に散在する室町・南北朝時代の石塔(七基)など。

「西国三十三番札所」の分霊像は、岩峯寺から室堂に至る俗に十里半(約四二キロ)といわれる参道沿いに奉納安置され、里程標の役割も果たしていました。多くに文化八年(一一八一)の年号が刻まれ、尾州城内志など各地からの寄進を示す銘文をみるることができます。

## 三十三所観音一覧

尊像	霊場	備考
1 立像 如意輪観音	紀伊国青岸渡寺	岩峯寺雄山神社にあったが不明
2 立像 十一面観音	紀伊国紀三井寺	横江集落北
3 立像 千手観音	紀伊国粉河寺	横江集落南の蔵王社前
4 立像 千手観音	和泉国施福寺	千垣トンネルの手前
5 坐像 千手観音	河内国葛井寺	千垣集落内
6 坐像 千手観音	大和国南法華寺	三途の川手前
7 坐像 如意輪観音	大和国龍蓋寺	芦峯寺庚申塚の傍
8 立像 十一面観音	大和国長谷寺	閻魔堂入口、元は旧道道角



第七番石仏(芦峯寺)〔実測図縮尺 1/20〕

9 坐像 不空罽索観音	大和国興福寺	明念坂下、元は閻魔堂入口
10 立像 千手観音	山城国三室戸寺	風土記の丘、元は明念坂下
11 坐像 准胝観音	山城国上醍醐寺	志鷹谷にあったとされるが流失し不明
12 立像 千手観音	近江国正法寺	冷谷にあったとされるが不明
13 坐像 如意輪観音	近江国石山寺	千手ヶ原、元は藤橋を渡った高地
14 如意輪観音	近江国園城寺	藤橋の真上の草生坂にあったとされるが不明
15 立像 十一面観音	山城国観音寺	桂台の有料道路側、元は材木坂
16 立像 千手観音	山城国清水寺	黄金坂にあったとされるが不明
17 立像 十一面観音	山城国六波羅蜜寺	美女平駅前の園地、元は付近の旧道側
18 如意輪観音	山城国頂法寺	美女平—ブナ坂間の旧道にあったとされるが不明
19 立像 千手観音	山城国行願寺	ブナ坂、元は付近の旧道側
20 立像 千手観音	山城国善峰寺	刈安坂
21 立像 聖観音	丹波国穴太寺	滝見台
22 立像 千手観音	摂津国総持寺	桑谷、元は向かいの旧道側
23 立像 十一面観音	摂津国勝尾寺	弥陀ヶ原の八郎坂と車道との出会
24 立像 十一面観音	摂津国中山寺	弥陀ヶ原弘法小屋の北にあったとされるが不明
25 坐像 十一面観音	播磨国清水寺	弥陀ヶ原弘法小屋から一〇〇m登ったところ
26 立像 聖観音	播磨国一乗寺	追分、大きく破損している
27 如意輪観音	播磨国円教寺	獅子ヶ鼻岩、笠のみ現存
28 立像 聖観音	丹後国成相寺	弥陀ヶ原バス停近く、元は姥石付近
29 坐像 馬頭観音	丹後国松尾寺	鏡石前の車道側、元は鏡石の脇
30 立像 千手観音	近江国宝厳寺	天狗平、元は大谷の上
31 立像 千手観音	近江国長命寺	立山博物館に展示、元は室堂平
32 立像 千手観音	近江国観音正寺	室堂山荘近く
33 立像 十一面観音	美濃国華嚴寺	室堂平



## ■地図について

地図に示した道は、すべて整備されているとは限りません。見学する際は、現地の状況をよく確認してください。

また、立山一帯は中部山岳国立公園です。高山植物や湿原など貴重な自然環境を保護するため、定められた歩道（木道）以外は立ち入らないようにしましょう。

## ■石造物の見学について

掲載されている石造物はすべて貴重な文化財であり、地域や個人の方々によって大切に守り伝えられてきたものです。

文化財を見学する際は、必ず所有者の方に許可・了承を得てください。所有者や管理者、他の見学者等に迷惑をかけることのないよう心がけましょう。

## ■立山信仰や道に関する資料

立山町 1977『立山町史 上巻』

富山県教育委員会 1980『富山県歴史の道調査報告書—北陸街道—』

富山県教育委員会 1981『富山県歴史の道調査報告書—立山道—』

上市町教育委員会 2009『史跡上市黒川遺跡群保存管理計画策定報告書』

## ■石造物に関する資料

京田良志 1976『富山の石造美術』富山文庫5 巧玄出版

富山県 [立山博物館] 1993『立山中宮寺跡石造物分布調査報告書』

富山県 [立山博物館] 1997『立山山上石造物・関連遺跡調査報告書（一）  
—室堂・玉殿窟』

富山県 [立山博物館] 1998『立山山上石造物・関連遺跡調査報告書（二）  
—地獄谷・賽の河原』

立山町教育委員会 2012『立山信仰宗教村落—岩峠寺—石造物等調査報告書』

■写真資料提供 \*1は富山県 [立山博物館] 提供

\*2は富山県埋蔵文化財センター 提供

\*3は上市町教育委員会 提供

## ■作成協力

佐藤武彦（立山町文化財保護審議委員会委員）、市森弘美、草卓人、塚田正弘、藤井明、吉澤紀貞、吉澤綾子（富山県いきいき文化財博士）

富山県 [立山博物館]、富山県埋蔵文化財センター、滑川市教育委員会、上市町教育委員会

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図及び2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平26北複、第5号）」（注意）承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院長の承認を得る必要があります。

発行日／平成25年3月22日 第1版 発行

平成26年5月20日 改訂版 発行

編集・発行／立山町教育委員会

〒930-0292 富山県中新川郡立山町前沢2440番地

Tel. 076-463-1121 Fax. 076-463-1923

印刷／有限会社山本印刷

〒930-0214 富山県中新川郡立山町五百石28番地

Tel. 076-463-0127 Fax. 076-463-1826